

# 松本市の景気動向

— 中小企業景気動向基本調査 —

【令和元年12月】

■ 調査概要（データ対象期間：令和元年12月1日～12月31日）

○調査期間：令和元年12月27日～令和2年1月22日

○調査対象：市内中小企業200企業に対して郵送等によるアンケート調査

○回収状況：建設業25企業、製造業22企業、卸売業13企業、小売業30企業

飲食業15企業、サービス業46企業（運輸、不動産仲介業を含む）

<合計151企業>

○調査項目：12月の売上・仕入・営業利益・受注量・受注単価・販売(客)数・販売(客)単価

状況向こう3ヵ月の業況見通し（DI値を集計）

(注)DI(Diffusion Index)値は、売上などの各項目についての判断の状況を示す。ゼロを基準として、プラスの値で景気の上向きを表す回答の割合が多いことを示し、マイナスの値で景気の下向き傾向を表す回答の割合が多いことを示す。従って、売上高などの実数値の上昇率を示すものではなく、強気・弱気などの景気感の相対的な広がりの意味する。

※DI=(増加・好転などの回答割合)-(減少・悪化などの回答割合)

松本市・松本商工会議所

# 概況

業況DIはマイナス幅の拡大、水準DIはマイナス幅の縮小

## 1. 業況判断

○全産業合計の業況DI（前年同月比ベース）は、前月（▲14.7）よりマイナス幅が2.5ポイント拡大し、▲17.2となった。業種別では、サービス業がプラスからマイナスに転じ、飲食業、小売業はマイナス幅が縮小した。建設業、製造業、卸売業はマイナス幅が拡大した。

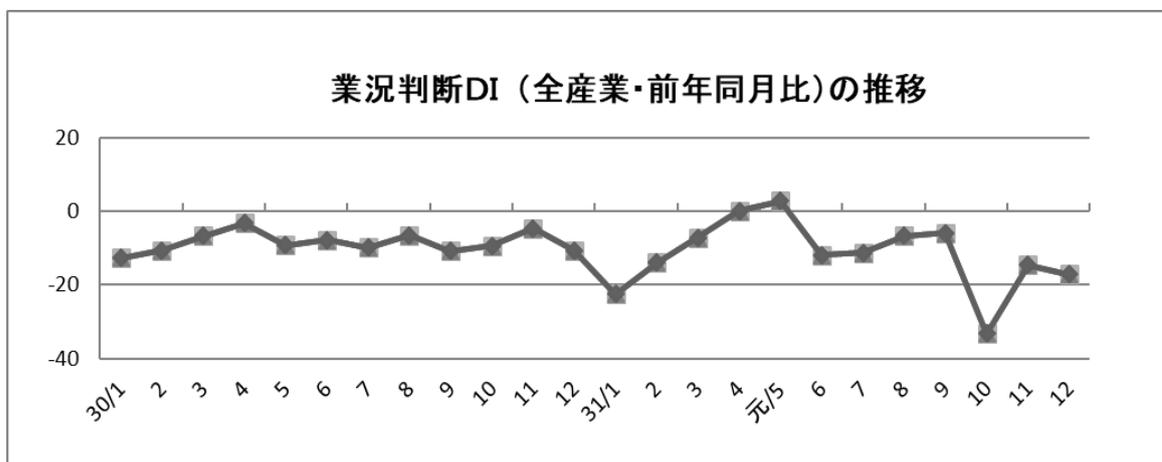
○全産業合計の水準DIは、前月（▲16.6）よりマイナス幅が3.4ポイント縮小し、▲13.2となった。業種別では、サービス業はプラスから0になり、建設業はプラスからマイナスに転じた。小売業、飲食業、製造業はマイナス幅が縮小し、卸売業はマイナス幅が拡大した。

業況判断DI

	業況[前年同月比]				今月の水準			
	好転%	不変%	悪化%	DI	良い%	普通%	悪い%	DI
合計	11.3 (13.3)	60.2 (58.7)	28.5 (28.0)	▲ 17.2 (▲ 14.7)	11.3 (12.7)	64.2 (58.0)	24.5 (29.3)	▲ 13.2 (▲ 16.6)
建設業	8.0 (12.0)	76.0 (72.0)	16.0 (16.0)	▲ 8.0 (▲ 4.0)	4.0 (8.0)	88.0 (88.0)	8.0 (4.0)	▲ 4.0 (4.0)
製造業	9.1 (18.2)	45.4 (40.9)	45.5 (40.9)	▲ 36.4 (▲ 22.7)	9.1 (13.6)	63.6 (50.0)	27.3 (36.4)	▲ 18.2 (▲ 22.8)
卸売業	0.0 (8.3)	61.5 (66.7)	38.5 (25.0)	▲ 38.5 (▲ 16.7)	0.0 (8.3)	53.8 (50.0)	46.2 (41.7)	▲ 46.2 (▲ 33.4)
小売業	16.7 (9.4)	50.0 (56.2)	33.3 (34.4)	▲ 16.6 (▲ 25.0)	13.3 (6.3)	53.4 (43.7)	33.3 (50.0)	▲ 20.0 (▲ 43.7)
飲食業	13.3 (0.0)	53.4 (56.2)	33.3 (43.8)	▲ 20.0 (▲ 43.8)	13.3 (6.3)	53.4 (49.9)	33.3 (43.8)	▲ 20.0 (▲ 37.5)
サービス業	13.0 (20.9)	67.4 (60.5)	19.6 (18.6)	▲ 6.6 (2.3)	17.4 (23.3)	65.2 (60.4)	17.4 (16.3)	0.0 (7.0)

( )内は前月データ

※「業況[前年同月比]」・・・前年同月の業況との比較による回答の集計  
「今月の水準」・・・事業主の方の主観による回答の集計

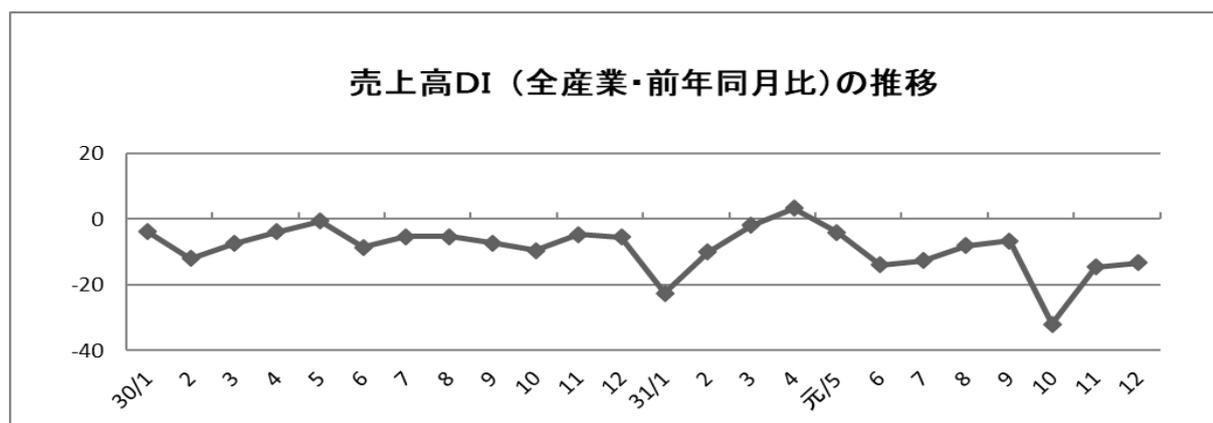


## 2. 売上高DI（前年同月比）

○全産業合計の売上高DIは、前月（▲14.6）からマイナス幅が1.3ポイント縮小し▲13.3となった。業種別に見ると、サービス業はプラスから0になり、建設業は0からマイナスになった。飲食業、小売業、卸売業はマイナス幅が縮小し、製造業はマイナス幅が拡大した。

【対前年同月比売上高業種別DIの推移】

	30年12月	31年1月	2月	3月	4月	元年5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	
全体	▲9.4	▲22.5	▲10.0	▲1.9	3.3	▲4.0	▲13.9	▲12.6	▲8.0	▲6.6	▲32.0	▲14.6	▲13.3	↗
建設業	0.0	▲10.0	▲20.0	8.4	▲8.7	▲26.1	▲13.1	▲8.3	0.0	▲4.0	4.0	0.0	▲4.0	↘
製造業	▲19.1	▲36.0	▲10.0	10.0	4.4	▲4.8	▲22.8	▲4.8	▲35.0	13.6	0.0	▲18.2	▲40.9	↘
卸売業	▲21.4	▲40.0	▲26.7	▲15.4	0.0	▲25.0	▲15.4	▲40.0	▲50.0	▲41.7	▲64.3	▲50.0	▲38.5	↗
小売業	▲6.0	▲29.6	▲12.0	▲12.9	▲3.6	▲14.3	▲20.7	▲25.8	6.7	13.3	▲39.3	▲21.9	▲6.7	↗
飲食業	▲5.6	▲35.3	▲35.3	▲22.2	11.1	0.0	▲47.1	▲12.5	▲26.6	▲31.3	▲76.5	▲43.8	▲20.0	↗
サービス業	▲9.5	▲6.4	10.5	6.6	10.8	16.7	6.4	▲4.2	4.0	▲12.8	▲34.1	4.6	0.0	↘

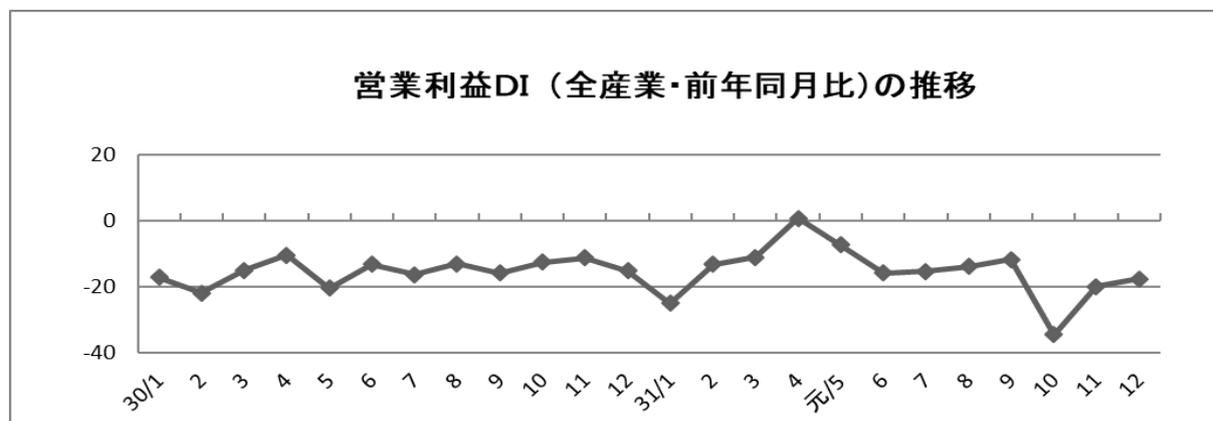


## 3. 営業利益DI（前年同月比）

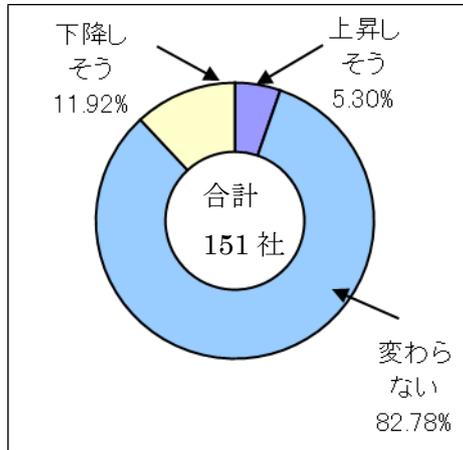
○全産業合計の営業利益DIは、前月（▲20.0）よりマイナス幅が2.2ポイント縮小し、▲17.8となった。業種別に見ると建設業はマイナスから0になり、小売業、飲食業、卸売業、サービス業はマイナス幅が縮小し、製造業はマイナス幅が拡大した。

【対前年同月比営業利益業種別DIの推移】

	30年12月	31年1月	2月	3月	4月	元年5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	
全体	▲15.3	▲25.2	▲13.3	▲11.2	0.7	▲7.4	▲15.9	▲15.4	▲14.0	▲11.8	▲34.7	▲20.0	▲17.8	↗
建設業	0.0	▲15.0	▲16.0	▲4.2	▲4.4	▲13.1	▲17.4	▲16.7	0.0	▲8.0	▲4.0	▲4.0	0.0	↗
製造業	▲23.8	▲32.0	▲30.0	▲20.0	8.7	▲19.1	▲18.2	▲19.0	▲45.0	▲9.1	▲10.5	▲31.8	▲50.0	↘
卸売業	▲7.1	▲40.0	▲6.7	▲7.7	25.0	8.3	▲15.4	▲10.0	▲40.0	▲16.6	▲50.0	▲25.0	▲23.1	↗
小売業	▲24.2	▲44.4	▲12.0	▲25.8	▲14.2	▲10.7	▲27.6	▲22.6	▲10.0	10.0	▲46.4	▲28.1	▲16.7	↗
飲食業	▲16.6	▲35.3	▲41.1	▲27.8	0.0	▲5.5	▲47.1	▲18.8	▲20.0	▲43.7	▲82.4	▲50.0	▲40.0	↗
サービス業	▲14.3	▲6.4	2.1	4.4	2.1	▲2.1	4.3	▲8.3	▲4.0	▲17.1	▲31.9	▲4.6	▲4.4	↗



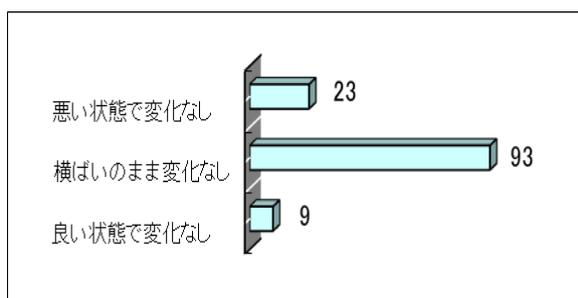
◇ 向こう3カ月の見通し ◇



○令和2年1月～令和2年3月の見通しDIは、「上昇しそう」が前月の調査に比べ0.63ポイント増加し5.30%、「下降しそう」が2.75ポイント減少し11.92%となった。業種別の見通しDIは建設業(▲8.0)、製造業(▲4.5)、卸売業(7.7)、小売業(▲3.3)、飲食業(▲13.3)、サービス業(▲10.8)であった。

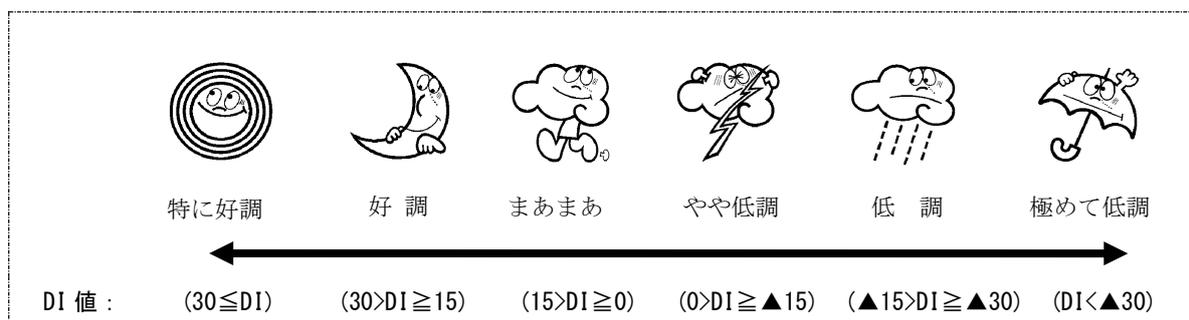
➡「上昇しそう」では「災害復旧工事が発注されるため」(建設業)「新規の取引にて既存取引をプラスできそうのため」(卸売業)「リニューアルオープン後お店が落ち着いてきたため」(小売業)「台風19号の災害復旧のため」(サービス業)といった声が寄せられた。

➡「下降しそう」では「受注状況に陰りが見え始めた感じであるため」(建設業)「消費税増税の後で景気が良くないため」(建設業)「回復の要因が見当たらないため」(製造業)「消費税増税の影響が更に悪化するため」(小売業)「12月はキャンペーンを行ったため」(小売業)「冬は暇なため」(飲食業)「正月後が心配なため」(飲食業)「新規ホテル参入で厳しくなると思われるため」(サービス業)「台風の影響で土木関係とは真逆で建築関係は真冬が長引きそうのため」(サービス業)といった声が寄せられた。



# 業種別景況

## <DI | 君の景況判断>



## 1. 建設業



【項目別DIの推移】

	30年12月	31年1月	2月	3月	4月	元年5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
売上高	0.0	▲10.0	▲20.0	8.4	▲8.7	▲26.1	▲13.1	▲8.3	0.0	▲4.0	4.0	0.0	▲4.0
受注量	13.7	▲10.0	▲12.0	▲16.7	▲8.7	▲8.7	0.0	▲12.5	4.0	4.0	20.0	4.0	▲4.0
受注単価	4.6	5.0	4.0	0.0	0.0	▲4.3	▲8.7	0.0	4.0	▲4.0	0.0	▲4.0	▲4.0
営業利益	0.0	▲15.0	▲16.0	▲4.2	▲4.4	▲13.1	▲17.4	▲16.7	0.0	▲8.0	▲4.0	▲4.0	0.0
見通し	13.7	10.0	12.0	▲4.1	13.1	13.0	4.3	8.4	▲4.0	▲4.0	4.0	0.0	▲8.0

## <経営者の目・見方・etc>

建設業

建築工事

土木工事

管工事

鉄工

- ・暖冬で雪も少ないので、現場の工程が比較的にスムーズに進んだ。
- ・漸く受注が入りだし公共も入りだしたが、単価的には厳しいのが現実である。しかし春の受注がほとんど無かったことからしたらほっとしている。来年に期待したい。
- ・多忙ではあるが、景気が良いという実感はない。
- ・売上は上がったが、仕入単価が変わらないため、実質マイナスとならざるを得ない。工事内容を見ながら受注をするしかないと思う。
- ・色々な要因の中で建設関係は比較的好調であったと感じるが、今後オリンピック等のイベントが終わるまでは停滞するような様子である。その後は首都圏において旺盛な需要が予想されているが、実際に発注にならなければ我々の手元には来ないので心配である。
- ・駆け込みの仕事があり良かった。新年は冷え込みが心配で、見通しが無く不安である。

・南信方面の受注が少ないとの情報があったが、松本平は良い状態を維持しているという景況感はあると思う。

## 2. 製造業



【項目別DIの推移】

	30年12月	31年1月	2月	3月	4月	元年5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
売 上 高	▲ 19.1	▲ 36.0	▲ 10.0	10.0	4.4	▲ 4.8	▲ 22.8	▲ 4.8	▲ 35.0	13.6	0.0	▲ 18.2	▲ 40.9
受 注 量	▲ 23.8	▲ 40.0	▲ 5.0	0.0	8.7	▲ 14.3	▲ 9.1	▲ 4.8	▲ 10.0	4.5	▲ 10.5	▲ 22.8	▲ 27.3
受 注 単 価	▲ 9.5	▲ 16.0	▲ 20.0	▲ 10.0	0.0	▲ 19.0	▲ 9.1	▲ 4.8	▲ 10.0	▲ 18.2	▲ 15.8	▲ 22.7	▲ 13.6
営 業 利 益	▲ 23.8	▲ 32.0	▲ 30.0	▲ 20.0	8.7	▲ 19.1	▲ 18.2	▲ 19.0	▲ 45.0	▲ 9.1	▲ 10.5	▲ 31.8	▲ 50.0
見 通 し	▲ 14.3	12.0	0.0	▲ 10.0	▲ 30.4	▲ 14.3	0.0	▲ 9.5	▲ 20.0	▲ 18.2	▲ 15.8	▲ 27.3	▲ 4.5

### <経営者の目・見方・e t c>

印刷

- ・社長の子や孫の世代が通常業務に携わる時代である。昨年も事業承継の案内が届くのをいくつも見たが、一方で、今なお厳しい業界事情ゆえ、事業承継がなかなか進まないのか、それ自体が大きナリスクとなりつつあるようである。
- ・個人年賀状のキャッシュレス決済だが、年賀状自体の顧客平均年齢層が高めと言うことも有り、なかなか結びつかなかった。

精密機械

- ・年末を前に大型案件が少なくなってしまう急減速してしまった。足元では回復の動きもみられるとの事だが、慎重に様子を見ていきたいと思う。

小型情報機器組立

- ・先の見通しはわからないが今が良いのか不安である。

金属塗装

- ・原油の高騰、米中貿易摩擦の影響が心配である。

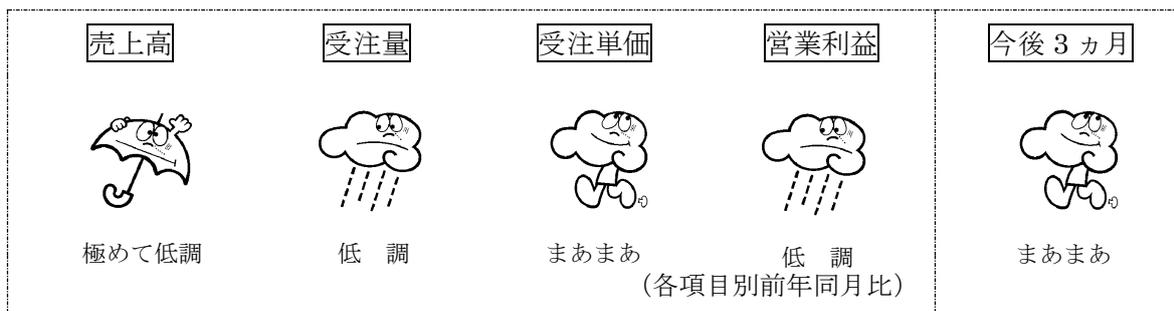
菓子

- ・12月に入って、需要も上昇基調にあり、同業の動きは活発になってきていると感じる。

漬物・味噌

- ・忙しさがなかった。

### 3. 卸売業



【項目別DIの推移】

	30年12月	31年1月	2月	3月	4月	元年5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
売上高	▲ 21.4	▲ 40.0	▲ 26.7	▲ 15.4	0.0	▲ 25.0	▲ 15.4	▲ 40.0	▲ 50.0	▲ 41.7	▲ 64.3	▲ 50.0	▲ 38.5
販売客数	▲ 14.3	▲ 13.3	▲ 6.7	▲ 7.7	0.0	▲ 16.7	▲ 15.4	▲ 30.0	▲ 20.0	▲ 16.7	▲ 28.6	▲ 16.7	▲ 15.4
販売客単価	0.0	▲ 20.0	▲ 20.0	▲ 15.4	0.0	0.0	▲ 7.7	▲ 20.0	▲ 20.0	0.0	▲ 35.7	▲ 8.4	7.7
営業利益	▲ 7.1	▲ 40.0	▲ 6.7	▲ 7.7	25.0	8.3	▲ 15.4	▲ 10.0	▲ 40.0	▲ 16.6	▲ 50.0	▲ 25.0	▲ 23.1
見通し	▲ 14.3	▲ 6.7	6.7	0.0	0.0	0.0	7.7	▲ 10.0	▲ 10.0	8.3	0.0	▲ 16.7	7.7

#### <経営者の目・見方・e t c>

土産品

・土産品需要が落ち込んでいる状態から抜け出せない状況である。新製品の開発に重点を置き、取り組み強化を進める予定である。

金属製品

・荷動きはまだ盛んとはいえないが、在庫のたぶつきが底を打ち、徐々に需給バランスが取れてきた。

・建築業界においては物件の引き合い話はあるが、先々の不透明感は否めない。

機械工具

・雪が少なく配達には助かった。

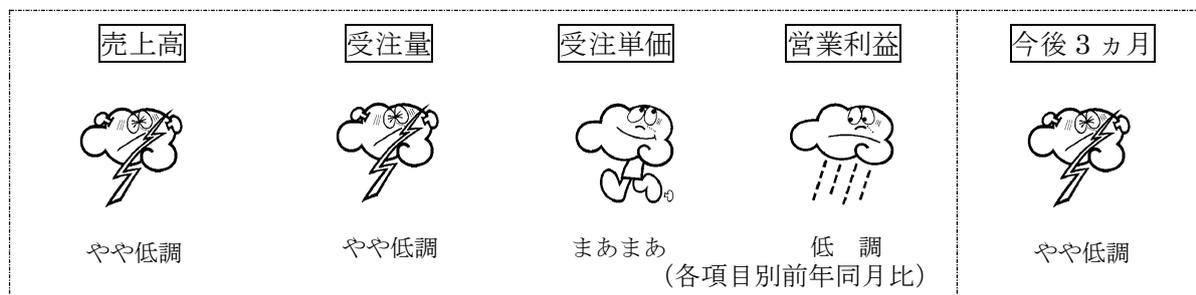
自転車

・暖冬の影響があり、冬物が昨年対比マイナスになったので、新規取引にてマイナス分をカバーしたが、全体では昨年並みになりそうである。

青果

・前年と比較すると、秋の台風の影響により野菜全般に単価高、小売価格に反映されつつも、例年と比較すると若干単価安である。

### 4. 小売業



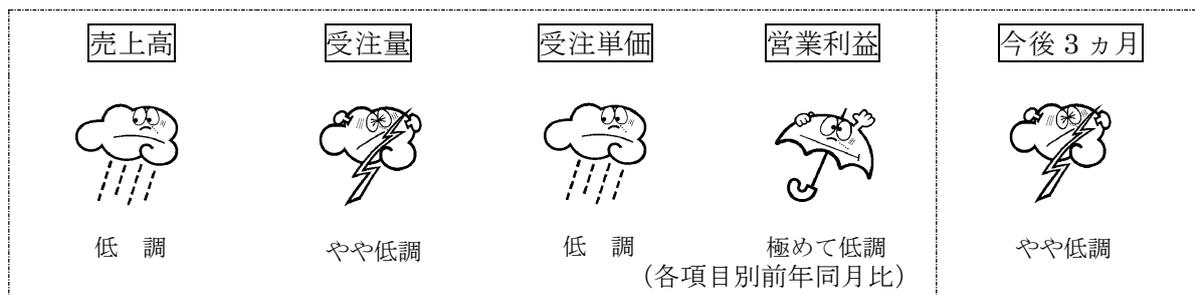
【項目別DIの推移】

	30年12月	31年1月	2月	3月	4月	元年5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
売上高	▲ 6.0	▲ 29.6	▲ 12.0	▲ 12.9	▲ 3.6	▲ 14.3	▲ 20.7	▲ 25.8	6.7	13.3	▲ 39.3	▲ 21.9	▲ 6.7
販売客数	▲ 24.2	▲ 37.0	▲ 16.0	▲ 12.9	3.6	▲ 3.6	▲ 31.1	▲ 35.5	0.0	0.0	▲ 42.9	▲ 25.0	▲ 13.3
販売客単価	0.0	▲ 14.8	4.0	▲ 16.1	▲ 7.2	▲ 7.2	▲ 20.7	▲ 6.5	3.4	3.3	▲ 35.8	▲ 15.6	10.0
営業利益	▲ 24.2	▲ 44.4	▲ 12.0	▲ 25.8	▲ 14.2	▲ 10.7	▲ 27.6	▲ 22.6	▲ 10.0	10.0	▲ 46.4	▲ 28.1	▲ 16.7
見通し	▲ 9.1	0.0	4.0	6.4	3.5	▲ 10.7	▲ 17.3	▲ 16.1	0.0	▲ 26.6	▲ 10.7	▲ 9.4	▲ 3.3

## <経営者の目・見方・e t c>

印章	・データ印の年号切れの注文と年賀状の注文が激減した。
印章・刃物研ぎ	・身近にあった商店が無くなり、人と人との繋がりが消えていくのは、残されていく人間にとって寂しい限りである。
生鮮食品	・12月は後半まで静かで年末にかけて忙しかった。 ・仕入れ値が5、6年前の価格より上がり厳しい状況である。 ・雪が無くて良いが、松本城北側の道路の渋滞が大変である。
洋菓子店	・繁忙シーズンに入り、忙しいことはいいことだが「働き方」を考えないといけない時代になったと感じる。 ・毎年のように発生する自然災害による農作物の高騰や、離職率の高さも踏まえた上で自店における「強み」を理解し戦略を持って経営していきたいと考えている。
和菓子 パン	・年末のお客様の動きが少なくなった。 ・売上全体をみると昨年並みだったが、クリスマス等イベントに対するインパクトが年々薄くなっているように感じる。
ショッピングセンター	・全国的な傾向であるが10月の増税以降消費マインドの冷え込みは続いている。また暖冬により重衣料の動きが悪かった。一方独自性の強い商品に関しては安定した動きでお客様の消費動向の変化が見られる。
住宅機器	・11月から急に動きが止まってしまった。オリンピックイヤーの2020年が大変心配である。
婦人服	・上旬の10日間で売上が上がった。結果その後商材が無くなってしまったが最終的には予算の数字で終わることができた。DM効果、準備、訴求キーワード等十分な準備が大切になってきていると感じる。
手芸材料	・寒さのためなのか来客数が少なかった。 ・年末年始は近隣の交通渋滞がひどかった。
化粧品	・仕事納めの日程の影響なのか、年末(12月29日、30日)の客数が減少したように感じた。
薬局	・2018年に比べ、2019年は販売単価が大きかった。
陶磁器	・年末セールの特典を前倒しし、割引率もアップしたが反応が薄かった。 ・業界の動向では、9月の駆け込みの反動が10月、11月と続いたが12月は平年に戻った。
燃料	・原油価格の上昇が心配である。 ・人手不足が切実な問題である。
石油製品販売	・温暖化に伴い燃料の販売が減少し、イラン情勢悪化により原油の輸入価格が上昇し先行き不安である。

## 5. 飲食業



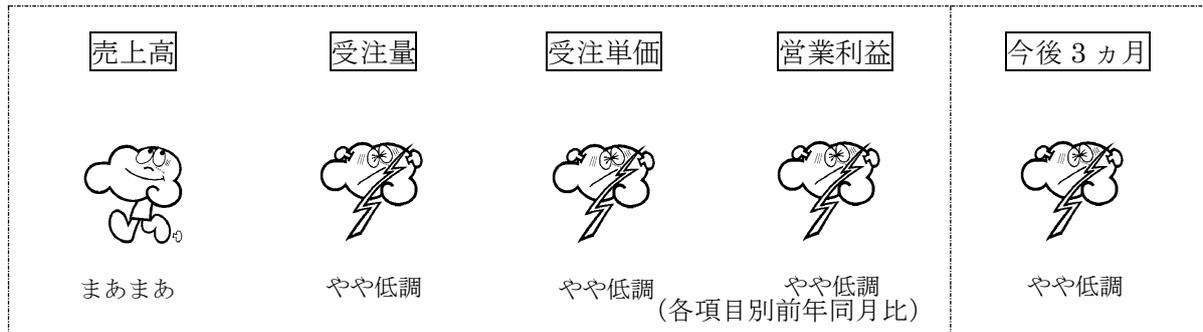
【項目別DIの推移】

	30年12月	31年1月	2月	3月	4月	元年5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
売上高	▲ 5.6	▲ 35.3	▲ 35.3	▲ 22.2	11.1	0.0	▲ 47.1	▲ 12.5	▲ 26.6	▲ 31.3	▲ 76.5	▲ 43.8	▲ 20.0
販売客数	▲ 11.1	▲ 23.6	▲ 41.1	▲ 16.7	11.1	5.5	▲ 47.1	▲ 12.5	▲ 26.6	▲ 37.5	▲ 70.6	▲ 43.8	▲ 13.4
販売客単価	▲ 16.6	▲ 29.4	▲ 23.5	▲ 27.7	0.0	▲ 5.5	▲ 23.5	0.0	▲ 20.0	▲ 18.7	▲ 17.6	▲ 18.7	▲ 20.0
営業利益	▲ 16.6	▲ 35.3	▲ 41.1	▲ 27.8	0.0	▲ 5.5	▲ 47.1	▲ 18.8	▲ 20.0	▲ 43.7	▲ 82.4	▲ 50.0	▲ 40.0
見通し	▲ 11.1	0.0	11.7	▲ 11.1	0.0	▲ 5.5	11.7	0.0	▲ 13.3	▲ 12.5	▲ 5.9	▲ 6.2	▲ 13.3

### <経営者の目・見方・e t c>

- 料理
  - ・景気も宴会等も規模が小さくなってきたように感じる。
- 創作料理
  - ・まったく客が動かない。例年の年越し料理の予約も無く、1月以降もこの状態は続きそうで、見通しがつかず不安である。
- 居酒屋
  - ・暖冬の影響で人の出が多くなった様な気がする。
  - ・天皇誕生日が無くなり、クリスマスの落ち込みが少なかったように思われる。
- 食堂
  - ・土日のイオンモールは大変な賑わいで車の渋滞も多少見られるが、周辺の道路は歩行者も多く活気があり良いことだと思われる。
- そば
  - ・例年、年末年始は財布の紐が緩み年の瀬を感じ、新年を新たな気持ちで迎える時で、お客様の喜びを感じ幸せな気持ちになり感謝を感じる。
- 寿司
  - ・今年は7月の長梅雨や10月の台風など天候に左右される事が多かったが、12月は例年通りの繁忙月となり、一年の締めくくりとしてはいい月となった。新年度はこういった異常気象の影響をどこまで織り込むのか悩みどころである。
  - ・今迄は会社関係のカード決済がかなり多かったが、10月以後個人のお客さんのカード決済が非常に増えてきた。この先「現金商売」という言葉は「死語」になってしまうのだろうか。時代の流れに取り残されぬように目をしっかりと見開いていかねばならないと思う。

## 6. サービス業



【項目別DIの推移】

	30年12月	31年1月	2月	3月	4月	元年5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
売上高	▲9.5	▲6.4	10.5	6.6	10.8	16.7	6.4	▲4.2	4.0	▲12.8	▲34.1	4.6	0.0
販売客数	▲9.5	17.0	2.1	4.4	4.3	0.0	4.3	▲8.3	2.0	▲14.9	▲40.4	0.0	▲10.9
販売客単価	0.0	▲2.1	6.2	6.7	▲4.4	2.1	2.1	▲6.2	6.0	▲6.3	▲25.5	2.3	▲2.2
営業利益	▲14.3	▲6.4	2.1	4.4	2.1	▲2.1	4.3	▲8.3	▲4.0	▲17.1	▲31.9	▲4.6	▲4.4
見通し	▲2.3	10.6	16.7	8.9	4.3	8.4	6.4	▲2.1	▲12.0	▲14.8	▲2.1	▲7.0	▲10.8

### <経営者の目・見方・etc>

自動車整備、  
板金塗装

温泉旅館  
ホテル

リラクゼーション  
タクシー

理容

ペットサービス

ソフトウェア

システムサポート

- ・昨年から続く雪の少ない状態が当社の仕事を忙しくさせている。雪を必要とする企業もある中で当社にとっては雪が少ないことはありがたいと思っている。
- ・雪も無くて観光客が少なく、全般的に動きが悪いと感じられる。
- ・宿泊は順調であったが、宴会は特に忘年会は年々サイズが小さくなっているの、数をこなすのが大変である。
- ・忘年会の受注が少なかった。
- ・消費税増税の影響を感じる。
- ・忘年会とクリスマスの月であったが昨年とあまり変わらない人の動きであった。
- ・今の景気が停滞期なのか、後退期なのか、それとも低迷期なのか12月の動向だけでは判断し難いところである。消費税増税から3ヵ月が経過したが、消費の落ち込みを感じる時もある。消費の現場では財布のひもの堅さが際立つように思われる。そしてこの先、毎年1月、2月は景気の落ち込む時期であるが、今年はどこまで下がるか不安である。
- ・12月は来店数、売上高共に前年並みであった。
- ・キャッシュレス決算が徐々に増えてきている。
- ・インフルエンザが流行しているので、引き続き健康管理には十分注意が必要である。
- ・ITの外注・下請構造的な大規模案件は、少しずつ少なくなっている。セキュリティの名目で作業環境を囲い込む形態は、IT技術者を減らす。今後クラウド環境の利用とともに、中小顧客も基幹業務は自社内の技術者育成が重要になると思われる。
- ・当面大きな波は無いと思われるが、個人消費の鈍化や設備投資意欲の低調感など不透明感を感じる。

教育業	・12月はクリスマスなどのイベントもあり、それに因んだ内容の授業はもちろん地域の方との交流を試みる予定である。
写真	・センター試験用写真を撮りに来る学生が多くありがたかった。
機械設計	・2020年3月までは忙しい予定だが、4月からはどうなるか心配である。
測量・建設コンサル タント業	・災害による業務が落ち着いてきたが、災害の業務による長時間労働は労働環境に影響を及ぼしたと思われる。また、業界全体の担い手不足が浮き彫りになったと感じる。
ホームクリーニング・ リネンサプライ	・イラン情勢の悪化による原油価格の高騰が心配である。